

寄附のお願い

いただいたご寄附は、そのご意向に沿って有効に活用させていただきます。
皆様の格別のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

寄附の 目的

- 1 教育、研究活動、地域貢献活動の充実
- 2 学生支援の充実
- 3 施設・設備の整備
- 4 その他大学運営の向上



詳細はこちら



福知山市のふるさと納税による寄附

設立団体である福知山市のふるさと納税制度により、寄附をされた市外にお住まいの方には、福知山市の特産品の中から希望されるお礼品が贈呈されます。



詳細はこちら

古本募金「きしゃぽん」による寄附

読み終えた本・DVDなどをご提供いただき、その査定金額が福知山公立大学に寄附される制度です。



詳細はこちら

2024 OPEN CAMPUS

7/14
SUN.

学部紹介、模擬講義、研究室訪問、
入試などに関する個別相談、
キャンパスツアーなど

※プログラムの内容は変更する場合がございます。

入試広報用LINE

オープンキャンパスの申し込み開始のお知らせや、
進学相談会、入試情報を配信します。



友だち追加はこちら

WEB オープンキャンパス

パソコンやスマホから気軽にアクセスできる「WEBオープンキャンパス」を公開しています。福知山公立大学の学びや先生からのメッセージなどを動画コンテンツでご覧いただけます。受験準備に役立つ情報をしっかり手に入れてくださいね。



詳細はこちら

LINE公式アカウント

地域の皆様にもご参加いただける本学の公開講座や大学祭などの各種イベント、本学の学生・教員の活動紹介などの情報を定期的に配信しています。是非ご登録ください！



友だち追加はこちら

大学公式SNS



▶ @UnivFukuchiyama



▶ @univfukuchiyama

大学への意見や本誌の感想を募集しています！

皆様の忌憚のないご意見をお寄せください。

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370 福知山公立大学 事務局(広報担当)
Tel:0773-24-7100 Fax:0773-24-7170 E-mail:publicity@fukuchiyama.ac.jp

福知山公立大学広報誌は本号より名称を「福公大だより 学舎新風」に改めました。

この名称には、福知山をはじめとする北近畿エリアに、新たな風を呼び込んでいきたいという思いが込められています。



福公大だより

学舎新風



CONTENTS

- P1 大学院地域情報学研究科を開設
- P3 教員新風～2023年4月に着任しました～
 - 木村教授～行政・学生・地域がつながるまちづくりを～
 - 大門准教授～集団力学を活かした地域防災の取り組み～
- P5 地域とともに取り組む教育研究とは？
 - 福知山市公文書の整理～地域の歴史や魅力を発見～
 - デジタルかかしプロジェクト～学生が狩猟免許を取得～
- P6 学生の日々～福知山での生活・将来をめざして～

地を究め 知を創る

表紙／学生ライターによる学友会取材の様子(P6)

大学院地域情報学研究科 2024年4月開設

福知山公立大学大学院地域情報学研究科では、情報学の深化をめざす研究開発に加え、その成果を地域にねざした実践活動に適用することをめざします。



大学院紹介

地域社会への「実装」を中心に据えて
地域の人々と並走する大学院に

研究科長就任予定者
くらもと いたる
倉本 到 教授



教員紹介

大学院地域情報学研究科とは？

大学院地域情報学研究科では、地域経営学部・情報学部の研究を深化させ、情報学を基盤にして地域課題の解決をめざします。また、理論研究にとどまらず、地域に密着した研究活動により新しい知見を得るとともに、研究成果を地域社会に実装・還元することも大きな目的です。

地方は都市部に比べて課題が明確で、関係者との対話がしやすい特性があります。様々な課題が地域社会に直結しやすい一方で、その分解決に向けたエネルギーも強いです。本研究科はこの特性を活かし、地域の中で研究し、課題に直接アプローチします。地域住民・自治

体・企業の皆様と協力し、北近畿地域の課題解決に貢献し、より良い地域社会を築いていきたいです。地域社会への「実装」に焦点を当て、地域の人々と並走できる大学院をつくり上げていきます。

北近畿地域の大学院としてめざすこと

地域情報学研究科は、京都府北部地域唯一の大学院であり、より高度な研究・教育を通して北近畿地域の学術拠点としての役割を果たします。

地域の皆様が地域課題などについて相談できる研究機関をめざし、地域特性を活かした研究活動を行っていきます。

大学院での研究の取り組み



組織間ネットワークに
着目することで、
新たな価値を創出する

研究指導担当教員

ジョン ニシノホ

鄭 年皓 教授



教員紹介

研究テーマ

私はモノづくりにおける組織間関係を研究テーマとし、特にサプライチェーン・マネジメント(SCM)に注目しています。通常の経営学が1社の戦略や生産システムを分析するのに対し、SCMではネットワーク関係を重視し、業界全体を俯瞰することが可能です。これにより、長期的な経営戦略において有益な情報が得られ、現代の複雑な社会で求められる事業範囲を超えた連携やイノベーションの創出に寄与できると期待されています。

今後力を入れていきたいこと

本学は北近畿地域を代表する大学で、地域の研究・教育を担っています。地域の未来を考えるにはネットワーク的な視点が欠かせず、地域経済を組織間関係から俯瞰し、将来に向けた取り組みや施策を提案したいです。また、「データサイエンス」においても人と組織の相互作用に焦点を当て、ネットワーク的視点で情報を扱う必要があります。経営学だけでなく、社会学や経済学など隣接する学問分野とのコラボレーションを通して、地域の課題解決に総合的かつ柔軟にアプローチしていきます。

研究指導担当教員

わたなべ せんのすけ

渡邊 扇之介 准教授



教員紹介

研究テーマ

自然災害や感染症の影響を、事前に実験で再現することは難しく、その予測には数学的なシミュレーションが不可欠です。私自身はシミュレーション分析を通じて、車の渋滞原因や解消法などを探求しています。数式を駆使し、デジタルで分析を行うことで、予想外の新たな発見に繋がることも。人間の視点だけでなく、数学的な視点から現象を解明することに研究の楽しさを感じています。

今後力を入れていきたいこと

数学は自ら定義を創り上げ、深化させることが可能な学問です。自身の関心を数学という分野の中で追求した先に、地域や社会の課題解決に繋がれると嬉しいです。

また、学生とともに研究活動を行えることも楽しみです。私だけでは考えつかないようなアイデアが学生から生まれることもあります。シミュレーション分析と同じで、予想外の発見がブレイクスルーを起こし、未知の領域を開拓するはず。「共創」の気持ちで研究に取り組みたいと考えています。

予測困難な事象を
シミュレーション分析により
解明する



教員新風 ~2023年4月に着任しました~



行政、学生、地域が
つながるまちづくり。
地域住民が求める
暮らしをかたちに。

地域経営学部
きむら あきのり
木村 昭興 教授



教員紹介



集団力学の観点から地域防災に貢献。
学生の参加が地域住民の
自主避難につながる。

地域経営学部
だいもん ひろあき
大門 大朗 准教授



教員紹介

研究テーマ・内容

■ 地域住民と行政との新たな関係性を模索

公共経営の役割は、行政が進める施策と地域住民のニーズのミスマッチを解消し、地域に根付くサービスを提供することです。私は、地域住民と行政との相互作用を促進するためのコミュニティ創りに取り組んでいます。

また、行政サービスは営利目的ではないため、成果が見えにくい部分もあります。そのため、地域住民が積極的に行政に参加し、施策の結果を可視化することが重要です。さらに、海外の事例を取り入れつつ、専門家がサポートするアプローチも検討しています。行政に頼るだけでなく、地域住民が自ら新しい価値を創造できることが最終目標です。

■ 学生参加型の取り組み

本学には、積極的に地域に関わり、貢献したいという意欲ある学生が多くいます。学生が「まちづくり協議会」に参加し、今までにない視点を取り入れることで、新しい発想による地域課題の解決策が見つかる可能性も。若い世代が積極的に意見を発信し、活躍できる場を設けることも地域の未来にとって大切だと考えています。



ゼミ活動の様子

地域への取り組みと今後の展望

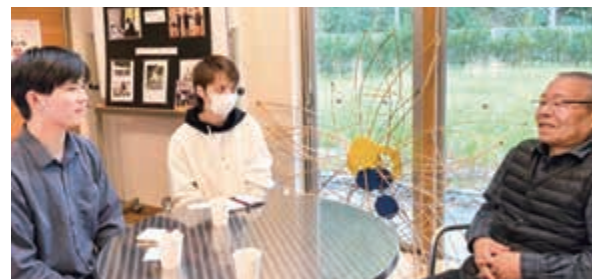
福知山の住民は町内会・自治会への参加率が高く、地域のために何かしたいという地元愛にあふれる方ばかりです。地域主体のイベントなど、人が集まって活動する機会も多くあります。大学がそれらの点と点をつなぎ、行政とも協働し、大きな面として機能させることで、地域のさらなる発展につながるはずです。

ゼミ生の声

地域経営学部2年
はなたに あゆむ
花谷 歩さん



私は福知山市夜久野町をフィールドとして「温泉施設再生による地域活性化—まちづくり協議会の役割と可能性—」をテーマに研究しています。夜久野みらいまちづくり協議会の「移住者交流会」への参加から、コロナ禍で閉鎖した温泉施設の再生が地域活性化の手段となる可能性に気づきました。関係者へのインタビューや事例研究などの調査を進め、2023年12月に開催された「京都から発信する政策研究交流大会」で他大学の学生も参加する中、その研究成果を発表しました。



夜久野みらいまちづくり協議会会長へのインタビュー

研究テーマ

- 災害直後から復興期の利他的行動（ボランティアなど）に関する実践的研究
- 防災意識・行動のパラドックスと防災環境の構築に関する研究
- 災害・被災経験が地域社会にもたらす集合的トラウマに関する研究

研究内容

グループ・ダイナミクス（集団力学）の観点から、災害における復興と防災に焦点を当てて研究しています。グループ・ダイナミクスは、集団における人の行動や規範による行動変容の力学を研究する社会心理学の一分野です。特に、災害時に避難できない人がいる理由を理解し、地域住民が防災や復興に主体的に関わるための実践を探索しています。

地域とともに対応策を発見し、地域全体での防災と復興に貢献することが研究の目的です。

地域への取り組みと今後の展望

日本では建物やライフラインなどのハード面の防災は進んでいますが、人々の心理というソフト面での課題が残ります。そのため、本学の学生が地域住民と交流しながら地域防災に取り組むことで、受け身ではなく主体的な防災や助け合いの心が地域の中に生まれるよう促しています。学生も3年にわたるフィールドワークを通じて積極的に地域に関わり、地域課題の解決に貢献する経験を積むことができます。将来的には地域との距離感が近い公立大学として、災害時には学生自らがボランティアを行う文化が根付くことが理想です。



夜間避難訓練の振り返り会に参加

ゼミ生の声

地域経営学部2年
いくの まさのり
生野 昌典さん



「避難しない人に対し、どのようなアプローチをすれば避難してもらえるか」というテーマで研究しています。先日、荒木地区自治会自主防災会が実施する、夜間の豪雨発生を想定した避難訓練に参加し、参加者の声などを調査しました。今後も訓練に参加し、検証を重ねることで、より地域住民が避難しやすい方法やルートなどを考察し、具体的な防災に活かしたいと思っています。

地域経営学部2年
いとい だいき
糸井 大樹さん



教育の観点から防災への取り組みを研究しています。社会に出てからは防災学習の機会が少ないため、中学・高校での防災教育の重要性を強く感じています。ゲーム感覚で楽しみながら身近に感じられる訓練やワークショップなど、防災教育の手法を模索しています。子どもから親、親から地域住民へと広がる知識共有のきっかけをつくり、地元福知山に少しでも貢献できればと思っています。

地域経営学部2年
ささき のあ
佐々木 乃愛さん



私は東北で生まれ育ち、幼い頃に東日本大震災を経験したこともあり、防災について学びたいという思いがありました。実際に被災地を訪れ、被災者の話を聞くツアーに参加。今後も積極的に被災地を訪問し、地域に寄り添った防災を学びたいです。本学は少人数教育で、自由度が高く、自分のやりたい学びが丁寧に深められます。福知山・北近畿エリアをはじめ、地域との連携や取り組みが多いことも魅力です。

地域協働型教育研究

？ 地域協働型教育研究とは

学生が地域住民や企業・団体との協働・交流を通じて、地域社会が抱えるリアルな課題と向き合う教育活動のことです。

地域資源を活用した学習で、持続可能な地域社会の実現に貢献できる実践的能力を養うと同時に、地域課題の解決にも寄与します。

1 福知山市公文書整理





地域経営学部
こやま もとたか
小山 元孝 教授



教員紹介

活動の経緯と内容

前職の京丹後市役所の職員だった際、地域の歴史を調査・収集・編集していました。それを知った福知山市から依頼があり、共同研究として公文書の整理を行うこととなりました。

まず、市役所が所蔵している明治時代から昭和30年頃までの公文書の全体像を把握。それを地域ごとに分け、1つ1つにラベリングしながら時代、内容ごとに整理し、目録としてデータベース化しています。公文書の内容は、議事録や災害復旧資料、校舎の建て替え、催事の資料などさまざま。中には地域の方のプライバシーに関わる資料もあり、十分に配慮しながら公開できる情報を選別し、図書館で展示会を実施しました。

今後の展望

活動を通して「福知山踊り」などに関する貴重な資料が見つかり、地域の新たな歴史や魅力の発見につながっています。お寺、神社、公民館などに眠ったままの資料があれば、ぜひ関心を向け、ご相談いただければと思います。地域の隠れた歴史や考え方を知ること、福知山市民の皆様の貴重な財産になるはずだと。



文化財企画展の実施風景

ゼミ生の声

地域経営学部2年 **伊地知 奈央さん**

公文書に触れられる大変貴重な経験でした。教科書には載らない地域に根付いた歴史を学ぶことで、まちの魅力を再発見できました。私を含め、市外出身の学生も地域の活動に参加できることは本学の魅力だと感じます。



STUDENT'S VOICE

2 デジタルかかしプロジェクト&狩猟免許取得





情報学部
やまもと よしのぶ
山本 吉伸 教授



教員紹介

活動の背景・経緯

ゼミの研究テーマは「未来のサービスをつくる」。少子高齢化の未来を見据え、科学技術を活用したサービスを地域に提供したいと考えています。地域のニーズを聞く中で、大江町毛原地区が鳥獣被害に悩まされていることを知り、その対策に関わることとなりました。

「デジタルかかしプロジェクト」では、有害鳥獣から農作物を守るために、ITを導入したシステムの開発を進めています。罾に鳥獣がかかるとその情報がスマホに送信されたり、遠隔操作で罾の入り口を閉めたりする技術が研究中です。鳥獣や罾について理解するためには、小手先の知識や技術だけでは不十分と考え、私とゼミ生3人が狩猟免許を取得しました。

今後の展望

ITを活用して、少子高齢社会における便利で「人のぬくもり」を感じられる新しいサービスを生み出したいです。そのために、地域に足を運び「本物」のニーズをもっと学んでいきたいと考えています。

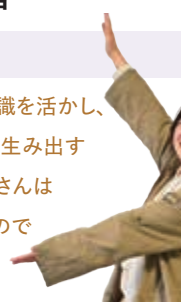


狩猟免許を取得

ゼミ生の声

情報学部3年 **加藤 彩花さん**

私も狩猟免許を取得しました。その知識を活かし、鳥獣被害の現場に泊まり込み、新技術を生み出すための調査なども行いました。地域の皆さんは新技術の導入に前向きで協力的だったのでとてもありがたかったです。



STUDENT'S VOICE

～学生ライターによる学生生活紹介～ 福知山での生活・将来をめざして

本学広報委員会が選出した学生が「学生ライター」として取材や記事の執筆を行っています。学生ライターの活動実績は右記QRコードからご確認ください。



大学生活の充実のために活動する「学友会執行部」



体育祭の様子

【会長】地域経営学部2年
ごとう ゆい
後藤 結衣さん (写真中央)

【副会長】情報学部2年
たかやま こうたろう
高山 晃太郎さん (写真右)

より良い大学生活の実現に向け日々活動している学友会執行部の皆さん。今回は、会長の後藤結衣さん、副会長の高山晃太郎さんにお話を伺いました！学友会では、学生交流イベントの実施や、公認サークルへの活動費支援などを行います。また、他の学生団体のイベント運営補助も行う、まさに福公大生のリーダー的存在。お二人は学友会の役割を「学生の意見・希望を汲み取り、実現させること」と語る。2023年4月には新入生と上回生との交流を目的に新入生歓迎会を実施。また、学内に設置した意見箱に寄せられた「体育会系サークルの見せ場が欲しい」という意見をもとに、11月には体育祭を主催しました。学友会執行部の取り組みについて、後藤さんは「学生数が約850人と少ないからこそ、自分の頑張りや人の繋がりを目に見える形で残せる」、高山さんは「まだまだ発展途上の大学で、学生の声が反映されやすい。これからも大学全体の発展に貢献したい」と話してくれました。

学生ライター：情報学部3年 **おおみ あやな 大見 彩名**



学生起業家への道：小玉 淳太さん(情報学部1期生)



情報学部(2024年3月卒業予定)
こだま じゅんた
小玉 淳太さん
内定先 レバレッジズ株式会社

人のためにできることを全力で

「情報学部1期生として様々なことにチャレンジしたい」という思いを抱き入学した小玉さん。コロナ禍で行動が制限され、思い描いた学生生活を送れないことにもどかしさや悔しさを感じたという。その中で「同じような環境にある周りの学生にも、高いモチベーションで成長してほしい」との思いから、2年生の春に地元企業と学生を繋ぐIT企業「株式会社andHub」を立ち上げ、学生の挑戦をサポートされてきました。「自分が全力になれる何かを見つけ、アクションを起こしてほしい」。大学生活で様々な経験をしてきた小玉さんの言葉は、後輩たちの挑戦を後押ししています。

学生ライター：地域経営学部3年 **こばやし こうや 小林 航也**



取材の様子

地域の方も利用可能な大学施設

メディアセンター



開館時間 月～土曜日 9時～18時

ご利用手続等の詳細はこちら▶



学生食堂

営業時間 月～金曜日 11時～14時

利用方法 食堂入口に設置している券売機で食券を購入し、カウンターにてお渡しください。



開館時間 火～土曜日 13時～18時

ホームページはこちら▶

